

第9回

「ペルシャ湾岸国から見た福島」

アラブ首長国連邦 連邦原子力規制庁 (www.fanr.gov.ae)
運営副局長 クリスター・ビクトルソン

原子力関係者の誰もがそうであったように、2011年3月11日金曜日、私はテレビとインターネットにくぎ付けになっていました。2つの自然災害が何万人もの命を奪い、福島第一原子力発電所で複数の系統が故障して原子力事故につながりました。原子力安全を30年以上専門にしてきた私の悲しみは深いものですが、日本の方々の悲しみと比べられるものではありません。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

過去の失敗から教訓を得ることは人生のあらゆる面で重要です。そして、それは特に原子力の世界でも大切な柱になっています。アラブ首長国連邦(UAE)は、この事実を非常に真剣に捕らえています。私が所属する連邦原子力規制庁(FANR)は、すでに具体的な手立てを講じています。その要点をここに記します。

UAE政府は2008年、原子力の平和利用計画を立ち上げることを決め、2009年に連邦規制機関としてFANRを設立しました。FANRは、いわゆる「3S」、すなわち放射線・原子力安全、原子力セキュリティ及びセーフガードを取り扱います。設立以来FANRは、世界の原子力安全のレジームに沿ってこれらの分野でいくつかの規制を制定してきました。2010年12月27日、エミレーツ・ニュークリア・エナジー社(ENEC)は、アブダビ首長国西部にAPR1400を2基建設する許認可申請書をFANRに提出しました。

日本で地震と津波が起きたのは、この申請に対する広範な審査を行っている最中でした。私たちはすぐに申請を見直すようENECに求めました。特に、福島事故に照らして外部ハザード、設計、立地に関する

解析をアップデートする必要があるか調べるよう求めました。ENECはこの見直しを今年末までに提出することになっています。FANRはそれをENEC許認可申請の審査に含めます。当初の予定では、FANRは2012年夏に審査を終了する見込みでした。けれども申請の初日から申し上げているように、「私たちは必要なだけ時間をかけます」。

原子力安全に係る規制機関が独立であることは明らかに必須ですが、規制機関は安全について責任を負うことはできません。許認可取得者がその責任を真摯に果たし、そのために十分な技術的・人的な資源を確実に投入させる権限が規制機関に与えられる必要があります。作業員と公衆の安全を維持し、常に向上させるうえで、許認可取得者の組織に強固で緊張感のある安全文化及びセキュリティ文化が醸成されていることが不可欠です。

FANRはすでに諸外国としっかりと連携しています。FANRのスタッフは、福島事故の1ヵ月後にウィーンで開かれたIAEA原子力安全条約(CNS)検討会議に参加したUAE代表団のなかで最大の割合を占めました。FANR総局長であるウイリアムD.トラバース博士は、真剣に教訓を引き出そうとするFANRの取り組みを伝え、各国のポスト福島の取り組みに関する情報をすべての国が速やかにかつ容易に入手できるようにする一元的な情報共有の仕組み(クリアリングハウス)を提案しました。ENECの最高経営責任者(CEO)であるモハメド・アルハマディ氏は、建設を予定している原子力発電所の安全性を完全に把握するためにENECが必要としている取り組みを

報告しました。

FANR と UAE の原子力コミュニティは、3S の全分野で IAEA の安全基準及び指針に準拠し、それらを支持しています。今年1月に UAE は、IAEA の原子力基盤総合レビュー (INIR) チームの派遣を受け入れました。今年秋には、ENEC 申請における立地に関する FANR の予備的知見を検討する別の IAEA チームを受け入れます。12月には、FANR は IAEA の最も完全な安全審査の1つである総合的規制評価サービス (IRRS) を受け入れます。FANR はこれまで、他の国の IRRS 審査に上級スタッフを派遣してきました。さらに、原子力安全・セキュリティ・セーフガードの分野で国内のスキル及び人材を確立することは FANR の重要な任務です。ここでも IAEA の支援がきわめて重要です。今日、FANR スタッフ 120 名の約半数が UAE 国民です。

UAE は、国際的な安全レジーム、IAEA、二国間協定（特に韓国原子力安全技術院 (KINS) との協定）及び原子力安全・規制の数十年にわたる世界の経験を活用する私達の包括的な取り組みをとっても信頼しています。FANR は、世界の安全レジームでもっとも重要な要素は各国における強力な原子力インフラであるという国際原子力安全グループ (INSAG) の見解を支持しています。これは政府の責任であり、長期的な義務です。私たちはこの責任に真剣に取り組み、そのようなインフラを UAE で確立すべく努力しています。特に今回の事故を受け、原子力コミュニティのすべてのメンバーと協力し、世界の原子力安全レジームの継続的な向上に寄与することを望んでいます。

今回の事故の有無に係らず、UAE の2つの基本事項は変わっていません。

- ・ UAE 政府は引き続き今後のエネルギーミックスのなかで原子力発電を重要な要素と考えています。
- ・ 同時に、起こり得る事故およびその放射線影響を市民が心配していることを認識しています。

実際、UAE の原子力政策の6つの柱のうち2つは「最高水準の安全性およびセキュリティ」と「運転の完全な透明性」です。そして FANR は、公開性と透明性を重要な価値観として維持します。

手短かに言えば、今回の事故から適切な教訓を学ぶことができなければ、原子力コミュニティは存続できません。事故で放出された放射線による死者が出ていないのは幸いです。けれどもそれは、たくさんの不幸中のたった1つの幸いに過ぎません。何がどのようにうまくいかなかったか調査で明らかになるまでには、何年とは言いませんがしばらく時間がかかると思います。

1つだけ明らかなことがあります。私たちは高水準で最新の安全基準に従い、あらゆる機会を利用して安全性の向上を図る必要があります。同じ失敗は許されません。原子力発電計画には強力に独立した原子力安全規制当局が必要ですが、規制当局は安全について一義的に責任を負うことはできません。一義的な責任を負うのは許認可取得者です。

2011年09月